

第3部:プログラミング演習

名城大学 理工学部メカトロニクス工学科 大原賢一







第3部での目標

■ Flipコンポーネントを自身で作成することで, RTコンポ ーネント開発の基礎を習得すること.

■ ここでは、第2部で用いたFlipコンポーネントのひな形 を用います.



CMakeLists.txtの修正

- 出力された以下のフォルダの中にあるCMakeLists.txtを修正する.
 - OpenCVの設定を組み込んでくれるように記述.





Cmakeの利用

城大

学

- RTC Builderで出力したファイル群そのものでは、RTCの実行ファイルの生成 はできない。
- Cmakeを利用し、ソースファイルのコンパイルに必要な設定が含まれた Visual Studio用のソリューションファイルを生成する.
 - Linuxの場合はソースファイルのコンパイルに必要な設定が含まれたMakefileを 生成する.
- Cmakeの起動(Windows 7, Cmake2.8の場合)
 - ●「スタート」->「すべてのプログラム」->「Cmake2.8」->「Cmake(Cmake-gui)」
- Ubuntuの場合
 - Dushホームから、Cmakeと入力するとCmake-guiがでてくるので、それを利用、

CMakeの起動画面・説明(Windowsの場合)

学

城大

A CMake 2.8.12.2 -	1.ソースファイルの場所を入力
File Tools Options Help	
Where is the source code:	Browse Source
Where to build the binaries:	✓ Browse Build
Search:	Grouped Arrenced I Add Entry Remove Entry
Name Value	
	2.ソリューションファイルなどを 出力する場所を入力.区別しや すいように「build」というフォルダ を指定することが多い.
Press Configure to update and display new values in red, then press Generate to generate selected	build files.
Configure Generate Cent 4.「Generate」を押すと、ソリューションファイルなどが生成される.	
3.「Configure」のボタンを押すと、指定 されたソースコードをコンパイルするの に必要な情報を収集する.	



FlipコンポーネントのソースをCMake(1)

城 大 学

名

A CMake 2.8.12.2 - C:/Users/ker	n/workspace/Flip/build	
File Tools Options Help		
Where is the source code: C:/Users/	ken/workspace/Flip	Browse Source
Where to build the binaries: C:/Users/	ken/workspace/Flip/build	▼ Browse Build
Search:		uped 🔲 Advanced 🗳 Add Entry 🗱 Remove Entry
Name	Value	ie
	RTC Builderで生成したプロジェ クトのフォルダの中にbuildとい うフォルダを生成して, cmake の結果を出力	RTC Builderで生成したプロジェ クトのフォルダを指定
	Press Configure to update and display new values in red, the Generator None	n press Generate to generate selected build files.
上記のソースコー の指定が終わった 「Configure」を押す	ドの場所など ら,	





FlipコンポーネントのソースをCMake(2)

A Create Directory

Build directory does not exist, should I create it?

Directory: C:/Users/ken/workspace/Flip/build

Voc	No
163	INC

出力先に指定したbuildのフォルダがない場合,生成する 旨が表示される

Constant.	+ +	- music et	
Visual (trie generator for this Studio 10	s project	
i lise	default native compi	lers	
Spe	cify native compilers		
Spe	cifv toolchain file for	cross-compiling	z
Spe	cify options for cross	-compiling	_

使用するビルド環境を指定する. Visual Studioであればそのバージョンを指定. (<u>Visual Studioのバージョンとの表記の違いに注意</u>) Visual Studio 2010 -> Visual Studio 10 Visual Studio 2012 -> Visual Studio 11 Visual Studio 2013 -> Visual Studio 12 Linuxの場合 Unix Makefiles を指定







Windowsの場合

学

城大

Flipコンポーネントのひな形がはき出されたフォ ルダを<FlipComp_DIR>と表記します.

- <FlipComp_DIR>/buildを開く.
- 「Flip.sln」というソリューションファ イルがあるので、そのファイルを ダブルクリックして、VisualStudio を起動

📙 CMakeFiles	2014/06/23 13:57	ファイル フォルダー	
📜 doc	2014/06/23 13:57	ファイル フォルダー	
📜 idl	2014/06/23 13:57	ファイル フォルダー	
👠 include	2014/06/23 13:57	ファイル フォルダー	
📜 src	2014/06/23 13:57	ファイル フォルダー	
ALL_BUILD.vcxproj	2014/06/23 13:57	VC++ Project	33 KB
ALL_BUILD.vcxproj.filters	2014/06/23 13:57	VC++ Project Filt	1 KB
cmake_install.cmake	2014/06/23 13:57	CMAKE ファイル	2 KB
CMakeCache.txt	2014/06/23 13:57	TXT ファイル	16 KB
cpack_options.cmake	2014/06/23 10:33	CMAKE ファイル	4 KB
CPackConfig.cmake	2014/06/23 10:33	CMAKE ファイル	5 KB
CPackSourceConfig.cmake	2014/06/23 10:33	CMAKE ファイル	5 KB
😸 Flip.sln	2014/06/23 13:57	Microsoft Visual S	7 KB
INSTALL.vcxproj	2014/06/23 13:57	VC++ Project	11 KB
INSTALL.vcxproj.filters	2014/06/23 13:57	VC++ Project Filt	1 KB
RACKAGE.vcxproj	2014/06/23 13:57	VC++ Project	11 KB
PACKAGE.vcxproj.filters	2014/06/23 13:57	VC++ Project Filt	1 KB
🔉 uninstall.vcxproj	2014/06/23 13:57	VC++ Project	33 KB
📷 uninstall.vcxproj.filters	2014/06/23 13:57	VC++ Project Filt	1 KB
uninstall_target.cmake	2014/06/23 10:33	CMAKE ファイル	2 KB
wix.xsl	2014/06/23 10:33	XSLT Stylesheet	5 KB
ZERO_CHECK.vcxproj	2014/06/23 13:57	VC++ Project	33 KB
ZERO_CHECK.vcxproj.filters	2014/06/23 13:57	VC++ Project Filt	1 KB

Linuxの場合 ■ ここでは特に何もしなくてよいです.



ソリューション エクスプロー… 🔻 🕂 🗴

🍃 ソリューション 'Flip' (8 プロジェクト)

ALL_BUILD

FlipComp
 Header Files

INSTALL PACKAGE uninstall

📰 Flip

doxygen_doc

Flip.h Source Flies Flip.cpp

अ FlipComp.cpp
 ■ 外部依存関係

CMakeLists.txt



- Visual Studioの場合
 - ソリューションエクスプローラにおいて、FlipComp プロジェクトを展開して、Flip.hを開く。
- Linuxの場合
 - <FlipComp_DIR>/include にFlip.hがあるので ,これをエディタで開く.

Flip.hの修正箇所

10 Fi#ifndef FLIP H #define FLIP H 12 #include <rtm/Manager.h> 14 #include <rtm/DataFlowComponentBase.h> #include <rtm/CorbaPort.h> 15 16 #include <rtm/DataInPort.h> 17 #include <rtm/DataOutPort.h> 18 #include <rtm/idl/BasicDataTypeSkel.h> 19 #include <rtm/idl/ExtendedDataTypesSkel.h> 20 #include <rtm/idl/InterfaceDataTypesSkel.h> 22 23 // Service implementation headers // <rtc-template block="service impl h"> 24 25 // </rtc-template> 26 27 // Service Consumer stub headers 28 // <rtc-template block="consumer stub h"> 29 // </rtc-template> #include<opencv2/imgproc/imgproc.hpp> #include<opencv2/highgui/highgui.hpp> #include<opencv2/core/core.hpp>



OpenCV用の各種ヘッダファイル を読み込ませる.



ソースファイルの修正

■ Visual Studioの場合

学

- ソリューションエクスプローラにおいて、FlipCompプロジェクトを展開して , Flip.cppを開く。
- Linuxの場合

统大

● <FlipComp_DIR>/src にFlip.cppがあるので、これをエディタで開く、





ソースファイルの編集(onActivated)

onActivatedの場所に、以下のコードを追加

```
ERTC::ReturnCode_t Flip::onActivated(RTC::UniqueId ec_id)
108
109
      ł
110
         //Outport用画像サイズの初期化
         m flippedImage.width = 0;
111
                                                     この部分のコードを追加
         m flippedImage.height = 0;
112
113
114
         return RTC::RTC_OK;
     | }
115
116
```





ソースファイルの編集(onDeactivated)

■ onDeactivatedに以下のコードを追加.

```
ERTC::ReturnCode_t Flip::onDeactivated(RTC::UniqueId ec_id)
122
23
      ł
          if(!m imagebuf.empty())
24
25
              m imagebuf.release();
26
                                                 この部分のコードを追加
              m flippedbuf.release();
27
28
29
30
          return RTC::RTC OK;
31
     }
100
```



ソースファイルの編集(onExecute)

onExecuteに以下のコードを追加

176

135 11 136 //新しいデータのチェック Ē 137 //InPortに入力されたデータが新たに入力されたデータの場合, isNew()の返り値がtrueになる. if (m originalImageIn.isNew()) 139 140 //InPortのデータの読み込み //事前にメモリを確保しなくとも、受信データ長にあわせて自動で確保される. 141 142 m originalImageIn.read(); 143 144 //OutPort用の画像サイズの設定.およびメモリの確保 if(m flippedImage.width != m originalImage.width || m flippedImage.height != m originalImage.height) 145 146 m flippedImage.width = m originalImage.width; 147 m_flippedImage.height = m originalImage.height; 148 149 //画像用メモリの確保 m flippedbuf.create(cv::Size(m originalImage.width, m originalImage.height), CV 8UC3); 152 m imagebuf.create(cv::Size(m originalImage.width, m originalImage.height), CV 8UC3); 154 //InPort(こ入力されたデータをm imagebuf(こコピー memcpy(m imagebuf.data, (void *)&(m originalImage.pixels[0]), m originalImage.pixels.length()); //InPortからのデータを反転する //m flipModeの値に応じて反転のモードを変更 //0: X軸周り //1: Y軸周り 162 //-1: 両方の軸周り cv::flip(m imagebuf, m flippedbuf, m flipMode); 164 //OutPort用のメモリ確保 int length = m flippedbuf.channels() * m flippedbuf.cols * m flippedbuf.rows; 166 m flippedImage.pixels.length(length); 169 //反転した画像データをOutPort(こコピー memcpy((void *)&(m flippedImage.pixels[0]), m flippedbuf.data, length); 171 172 //OutPortから処理結果を出力 m flippedImageOut.write(); 174 175 return RTC::RTC OK;

この部分のコードを追加



ソースコードのコンパイル

■ Visual Studioの場合

- ソリューションエクスプローラにおいて、FlipCompプロジェクトで右クリックし、「スタートアッププロジェクトに設定」を選択
- ●「ビルド」→「ソリューションのビルド」を選択
- Linuxの場合

城大 学

<FlipCompDir>/build においてmakeを実行

何もエラーが出なければコンポーネントの実行ファイルが生成される。エラーが出た場合は、例に見ながらソースファイルとヘッダファイルの記載を確認する。



Flipコンポーネントの実行

- ネーミングサービスを起動する.
- RTSystemEditorを起動する.

南

- Windowsの場合
 - DirectshowCameraCompおよびCameraViewerCompを起動
 - Visual Studioの場合
 - > 以下の画面上部の矢印ボタンを押すと、ビルドと実行が行われる.
 - > 少したつとSystem EditorにFlipCompが追加される.
- Linuxの場合
 - Cameraコンポーネント, Viewerコンポーネントを起動
 - <RTC_DIR>/build/srcに移動し, ./FlipComp
 - 少したつとSystem EditorにFlipCompが追加される.
- カメラコンポーネント、Flipコンポーネント、ビューワコンポーネントを つないで、「All Activateを行い、動作確認をする.」





まとめ

- Flipコンポーネントの作成を通じて、RTC作成の一連のプロセスを体験.
- 自分でRTCを作る場合は以下のプロセス
 - 作成するRTCの仕様を決定する.
 - 仕様に基づき, RTC BuilderでRTCのひな形を作成
 - CMakeを行い,開発環境に合わせたビルド環境を生成.
 - ヘッダファイル、ソースファイルにコンポーネントの実体を実装.
 - コンポーネントの動作テスト





補足

■ 自分のソースコードを公開

- GitHubなどで公開
- 公開する場合は、buildフォルダは削除した状態で公開すること。
 ▶ 特定の環境情報を含んだビルド環境であるため。
- マニュアルの整備をきちんと行うこと!
- 人の作成したRTCを利用
 - GitHubなどで公開されているRTCのソースコードの多くは、CMakeを行いビルド環境を構築すれば、ビルドし、実行してみることが可能.

▶ 必要なライブラリがある場合は適宜その環境構築が必要.

- マニュアルをよく読むこと!
- 学習の意味で、ソースコードにも目を通してみる. !

> ソースコードがRTミドルウェア学習のための一番の教科書です.





RTミドルウェアサマーキャンプのご案内

- 8月4日~8日まで、茨城県つくば市の産業技術総合研究所において開催
- 所属の異なるメンバーでグループを構成し、協力しながら期間内でグループのコンセプトにあったシステムを構築.
- RTミドルウェアに精通した講師陣のサポートをいつでも受けれる!
- 普段の講習会では時間の都合で困難な、RTミドルウェアに関連する様々 な講演を聴講できる!
- 日本全国に知人ができる!
 - 昨年度の参加者はFacebookなどで今もつながっています!





RTミドルウェアコンテストのご案内

- SICE SI(計測自動制御学会システムインテグレーション部門講 演会)のセッションとして開催
 - エントリー 〆切:8月22日

- 講演原稿 × 切:9月26日
- ソフトウエア登録:12月初旬ごろ
- 発表・授賞式:12月15日(月)~17日(水)
 於:東京ビッグサイト
- 詳細はWebページ: openrtm.org
 - コミュニティー→イベントをご覧ください





